

2020年度

社会福祉法人北海長正会 事業計画

<事業方針>**I. 法人を取り巻く情勢と課題****(1) 働き手を確保するための新たな取り組み**

福祉分野の人材不足は福祉サービスへのニーズが高まる一方でそこに携わる人材が足りない状況が続いており、国は介護分野における人手不足の状況を踏まえ今後5年間で60,000人の外国人労働者の受入れ見込みをたてている。当法人では2020年度から「外国人留学生制度」を活用してミャンマーから2人の外国人留学生を受入れるとともに、継続的な外国人介護人材の受け入れに向けた体制作りを進めていく。法人内では2019年度から星槎道都大学との連携協定による学生インターシップ制度による外国人留学生の就労受入れは既に始まっているが、就労を目的とした外国人介護人材の受入れは初めてとなる。今後長期的に外国人介護人材の受け入れを考えたときに外国人介護人材の核となり指導できる人材が必要であるという観点から先ず日本語レベルの高い優秀な留学生2名を受入れる。介護福祉士養成校で2年間介護の専門的な知識を学んでもらい2022年4月に当法人の介護職員として従事するという流れとなる。受入れにあたっては、文化、価値観、生活スタイル等の違いもあることから生活面においてのきめ細かなサポートが必要となる。あわせて就労条件を分かりやすくすることや、業務マニュアルの統一化など外国人介護人材にとって働きやすい環境を作っていくことは必要である。業務の見直し、多様化する働き方をあらためて見つめ直す作業が必要となるが、それがひいては日本人職員にとってもプラスに働き、お客様、地域から「選ばれる組織」づくりに繋がるものと考えている。単に日本で不足している介護分野の労働力の担い手としてではなく、外国人介護人材が職場や地域に溶け込み、法人（職員）と共に成長していけるよう関係機関（団体）とも連携を図りながら長期的な視野に立って受け入れを進めていきたい。

(2) 感染症防止対策の強化に向けて

新型コロナウイルスによる肺炎が発症し国内外で感染者が増加している。北海道内では異例ともいえる「緊急事態宣言」が出され、現在も道民生活に大きな影響を及ぼしている。当法人には障がい者（児）や高齢者等の自己免疫力が低下しているお客様がサービスを利用しており、感染症が施設内に持ち込まれると感染が広がりやすい状況にある。感染自体を完全になくすることはできないものの集団生活上やサービス利用時における感染の被害を最小限にとどめなくてはならない。

インフルエンザやノロウイルス等の集団感染を起こす可能性のある感染症には、法人委員会組織である感染対策衛生委員会が中心となり「感染対策マニュアル」に基づきその対応にあたってきた。新たな感染症は個人の身体症状の悪化にとどまらず、国、自治体や関係機関を巻き込み、長期にわたる対応が求められるものとなった。感染症は法人運営に大きな影響を及ぼす高リスク要素として捉えなければならない。いかなる感染症も「持ち込まない・拡げない・持ち出さない」が感染予防の原則である。感染症防止対策としては、①感染対策マニュアルの見直し②感染症予防（対策）に向けた研修の開催、③感染症関連備品の備蓄をあげる。職員一人ひとりが感染症の特徴、感染経路や症状の違いを正しく理解し、平常時から手洗い対策等を徹底するとともに、感染症発生時には法人が一丸となって迅速に適切な対応を図っていく。

Ⅱ. 法人事業の課題

(1) 人材の確保・育成・定着に向けた働き方改革

少子高齢化に伴う労働人口減少が進む中、働き手の確保は年々厳しさを増している。働き方の多様化に伴い、「人」「時間」「賃金」に関わる様々な法改正が今後も続いていくことが予想され、当法人においても外部環境の変化に対応しうる「働き方改革」を進めていかなければならない。定年再雇用を含めた定年制の見直し、障がい者・外国人雇用へ対応、多様な働き方に伴う労働時間の管理や年次有給休暇の取得率の向上、能力に応じた賃金体系のあり方などは取り組まなければならない喫緊の課題である。またこれらの課題は、人材の確保・育成・定着と密接な関係もあることから、法人内部による検討はもとより人事コンサルタント等の意見も取り入れながら今ある課題に取り組んでいく。法人の価値は、利用者からみた価値（利用価値）、社会や地域から見た価値（社会的価値）、職員から見た価値（所属価値）で構成されるといわれる。これからは3つの価値をバランスよく最大化し、働きがいのある職場、魅力あふれる職場づくりを目指していく。

(2) 障がい者施設、高齢者施設の大規模改修工事に向けて

障がい者施設「北広島リハビリセンター」は、2018年度から更生・療護部の施設体系の見直しを進めてきた。2020年度においては更生部入所支援事業を廃止し、療護施設（定員80名）を中心とした施設体系に移行する1年となる。43年前の施設空間を抜本的に見直し、①全室個室化、②プライバシーの確保、③お客様の自立（律）を支援し権利を擁護するサービスの提供を目指す。本年度は2021年度中の大規模改修に向けて非常に重要な一年となる。大規模改修工事に係る計画を取りまとめ、関係機関と協議のうえ進めていくこととする。

高齢者施設「地域サポートセンター四恩園」は、平成7年10月の開所以来25年間、北広島市内の高齢者を支える施設・在宅サービス事業所としてのその役割を担ってきた。同施設における構造上の不具合や設備上の故障については大規模な改修工事を行わず、その都度応急的又は部分的な対応により措置してきた。しかし経年による劣化、老朽化は否めず、特に屋上防水・外壁塗装、配管設備の傷みが激しく、四恩園のサービスを利用されるお客様に不便をかける状況もでてきている。高齢者施設においても障がい者施設同様、2021年度中の大規模改修工事に向けて計画を取りまとめ、関係機関と協議のうえ進めていくこととする。

(3) 地域の福祉サービスの拠点として

北広島市の高齢化率は32.1%だが、当法人が位置し主たるサービス提供エリアとする北広島団地地区の高齢化率は46.3%となっている。市内の高齢化は確実に進んでおり、要介護高齢者等へのサービスをさらに充実させていかなければならない。昨年、訪問介護事業所でスタートした要介護高齢者の在宅生活を24時間支える仕組みとしての「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」事業を始め、障がい者施設で在宅要介護高齢者を対象としたリハビリ特化型の地域密着型通所介護事業を本年4月からスタートさせる。私たちの仕事（事業）は、お客様の命と生活を守り支えている。これからも地域の福祉サービスの拠点として、地域の障がい者（児）、高齢者が抱える生活課題、多様化・複雑化する地域の福祉ニーズに対して、私たちが持つ専門性（認知症介護・介護予防・相談等）やケアの力で地域に何が出来るかを想像し、最期まで住み慣れた地域で安心した暮らしが継続できるよう地域住民、自治体とともに三位一体となって事業の推進に努めていかなければならない。

(4) 法人事業委員会による事業の推進

<事業予算執行管理委員会>

本委員会では事業予算に関する計画・管理・執行を統括し、法人及び施設経営の拡充及び円滑な事業展開を図ることを目的とし財務分析と課題の解決に向けて検討を行っている。2020年度はこれまで以上に月単位での予算数値と実数値の比較検証が重要である他、予算執行にあたっては厳粛な体制で細心の注意を払いながら臨む必要がある。本年度予算は今までの目標・期待値的な設計からより実数値に近い形での設計に変更している。このことは収入、支出、経常収支差額上での最低ラインとして位置づけをしっかりと行い、これを示すことで全

体的な収入の底上げと収支差額の改善にむけた強化が図れることに寄与するものと考えている。当委員会としても法人の財務事情がさらに安定するよう明確な方針を打ち出し、一つの小さな努力の集大成が将来的に大きな成果として現われることを切に願い、2020年度を役職員一丸となって乗り切れるよう取り組んでいきたい。

<人事・給与適正化推進委員会>

本委員会は、職員の採用をはじめ法人内の異動や課長以下の人事、給与の定昇や調整等、人事、給与システム管理に関することなど、業務の円滑な展開のための維新並びに適材適所の人事とともに、適正な給与管理を行うことを目的にしている。少子高齢化・労働人口の減少や働き方が多様化していく中、働き手の確保がここ数年の課題となっている。国も働き方改革を推進し、当法人としても魅力ある職場、働きがいのある職場づくりに向けて、有給休暇の消化の向上、定年制の見直し、賃金体系あり方検討など今ある課題に取り組んでいかなければならない。

<人材育成システム推進委員会>

本委員会は、「人材育成考課システム」を通して人材の育成・成長により組織の育成・成長を図り、働きがいのある職場にすることを目的にしている。このシステムのねらいは、単に上司が部下を評価し、職員処遇に反映させることではない。重要なのは年2回の自己啓発面接と考課により、日々の業務の中でなかなか確保できない上司と部下との貴重なコミュニケーションの機会として位置付け、安心して働くことのできる職場環境の確立を目指すものである。制度を導入して5年目を迎えるが、実際にシステムを進める中で面接のあり方や評価指標の内容については課題が多く、今年度はシンクタンクを利用しながらシステムの運用形態や方法に見直しに重点を置き、システムの再構築により法人の使命であるお客様の意向を尊重し尊厳の保持を図りたい。

<サービス向上推進委員会・研修委員会>

本委員会は、法人の事業のサービスの質の向上と業務の円滑な展開のために、企画・調査・研究等を行うことを目的としている。生活を支える専門職は目の前にいる人の生活のありかたに悩み、ゆらぎながらかつゆらがないこれからの生き方を本人や家族とともに創造していく。不安定で複雑かつ予測がしにくい時代の中で、溢れる情報の中からゆらぎながらも真実を見通していこうとする「知」、他人を思いやり自らのことに憂いることのない「仁」、困難を恐れず乗り越えていこうとするチャレンジ精神としての「勇」。専門性があり、かつ相手のことを思い、その人のために実行できる力を持つそんな三徳を備えた「人を育てる」「育てる人を創る」を目標に研修内容、方法を検討していきたい。

北広島リハビリセンター更生部

更生部は、当法人の障がい者施設第2期3ヶ年アクションプランに基づき、2020年度更生部入所支援事業の定員の縮小並びに最終的には廃止を目標に施設体系の見直しを進めていく。現在、在籍中のお客様については、当法人療護部を含めた他施設移行が主な移行先となるが、今後の生活についての意思確認を引き続き行いながら適切な時期を見定め移行を進めていくこととなる。

施設生活においては、当法人の基本理念・倫理綱領に基づき、お客様が生きる喜びを感じ、この先目標とする生活に近づくことができるよう生活・医療・訓練において適切なサービス提供ができるよう努めていく。

<重点事項>

1. 「サービスの質の向上」への取り組み

法人の基本理念や倫理綱領に基づき、お客様一人ひとりの個別性を理解し、毎日の生活において「生きる喜び」や「大切にされている」と感じられるサービスを提供する。サービスの適正化・標準化を図るための取り組みとして、ケアガイドラインの活用と第三者（苦情解決委員、北広島市、北広島市社会福祉協議会、弁護士等）によるサービス検討委員会を開催していく。

2. グランドデザインへの取り組み

更生部定員数については、今年度中に入所支援事業の廃止を目標に現員数の状況を見定め定員数の変更（40名→20名→廃止）を行っていく。当法人内施設を含め移行先となる施設へスムーズな移行が図れるよう進めていく。

2021年度の施設全体改修に向けては、お客様の生活環境の見直しを第一に考え、ハード・ソフト両面の見直しを行うための準備期間として重要な一年となる。お客様、ご家族、地域住民の方々に喜んでもらえるよう魅力あふれる施設づくりを目指していく。

3. 感染症防止対策の取り組み

入所支援の状況から、感染症が施設内で発生した場合、感染が拡大するリスクが大きい。このため、まずは「感染を持ち込まない」「感染を広げない」ことに主眼を置き、消毒・検温・換気を徹底する。感染拡大防止ガイドラインに基づき、発生した場合には拡大しないよう感染症対策に対する知識を高め、感染被害を最小限にとどめるよう環境整備に努める。

療護部は、当法人の障がい者施設第2期3ヶ年アクションプランに基づき、2022年度までに療護部を核とした施設体系の見直しを進めることを基盤に、①現行の施設の運営体制の見直し、②サービスの質の向上に向けた取り組み、③今後の施設全体改修の具現化、以上3つを柱とする「グランドデザイン」を確実に実践できるよう、当法人の基本理念・倫理綱領に基づき、職員が一丸となって取り組んでいくことを当施設の基本方針とする。

この基本方針を基に、お客様一人一人が心豊かで快適な生活が出来るよう、お客様の意思及び人格を尊重した個別支援計画を作成し、チームケア・チームアプローチによりサービスを提供する。また、お客様及びその家族からの施設サービスに関することやグランドデザインに関する事など、いかなる相談・要望・苦情についても誠意を持って対応し、お客様・ご家族や地域に求められる施設となるよう職員が一体となって事業の推進に努める。

<重点事項>

1. 「生活の質の向上」に向けての取り組み

個々の利用者の障がい程度や特性に充分配慮した個別支援計画を策定し、サービス提供場面においては、個別支援計画実現のために、他職種協働によるチームを組んで支援を提供する。(チームケアの強化)

また、サービスの標準化を図るための取り組みとして、ケアガイドラインの活用と第三者(苦情解決委員、北広島市、北広島市社会福祉協議会、弁護士等)によるサービス検討委員会を開催する。

2. 安定した施設運営に向けての対策

「障がい者施設第2期3ヶ年アクションプラン」に基づき、2022年度に予定する療護部主体の運営体制の収支状況の分析を進める。

このほか、次回報酬改定(2021年4月)に対する収支シミュレーションを行い、財政の安定化を図る。

3. グランドデザインへの取り組み

更生部と連動し、利用者の意向や支援体制の状況を鑑みながら適切な利用者受け入れを進める。

また、2021年度の施設全体改修をめざし、より詳細な改修計画を作成するとともに、ハード面だけでなく、ソフト面の事業の確立を目指し、利用者が生活に喜びを感じ、また、職員の働く意欲が湧いてくるような施設環境整備を進める。

4. 感染症防止対策の取り組み

入所支援の状況から、感染症が施設内で発生した場合、感染が拡大するリスクが大きい。このため、まずは「感染を持ち込まない」「感染を広げない」ことに主眼を置き、消毒・検温・換気を徹底する。感染拡大防止ガイドラインに基づき、発生した場合においては拡大しないよう感染症対策に対する知識を高め、感染被害を最小限にとどめるよう環境整備に努める。

北広島リハビリセンター診療部

診療部は、2017年度から北広島市介護予防日常生活支援総合事業を開始し、2018年度においては診療体制の見直しと薬剤管理の外部化によって収支バランスの適正化を図ってきた。2020年は新規事業（地域密着型通所介護事業）の開始に伴い法人内の会計区分（拠点）の見直しを行い、診療部については施設を利用されるお客様（施設入所者、通所外来）の診療報酬のみを収入源とするシンプルな会計区分とする。2020年度は、現診療体制のもと引き続き障がい者施設、高齢者施設利用者の健康管理に努めていく。

<重点事項>

1. 健康管理への取り組み

施設で生活されるお客様の健康管理（予防・早期発見・治療）は、健康な生活を継続する上で重要な関わりである。障がいの多様化・重度化、高齢化から医療的な処置を必要とするお客様は多く、他医療機関への受診や入院はお客様にとっての負担（不安）を強いら、施設にとっても経営上大きな影響を及ぼすものである。施設（地域）で生活されているお客様が安心して生活を送れるよう健康管理に向けた診療体制の確保に取り組んでいく。

2. 外来リハビリテーションの取り組み

法人理念「お客様が喜んでもらえるように」「お客様に役に立てるように」に基づき、入所利用者様に対して物理療法による消炎鎮痛や ST が摂食機能療法および疾患別リハビリテーション実施し、疼痛緩和や可能な限り長く経口摂取を継続出来る事、言語的・非言語的コミュニケーション能力の維持・向上が図れるよう支援する。

3. 感染症防止対策の取り組み

重度障がい者や高齢者においては感染リスクが高まることを踏まえ、感染防止対策委員会と連動して感染対策マニュアル、感染拡大防止ガイドラインに基づいた感染予防に努める。感染症が発生した場合の対策など今後の感染対策マニュアルの見直しを進める。

のびのびファイブ

介護予防・日常生活支援総合事業において、3年目を迎えお客様のニーズ達成や介護度の改善等も図れ、順調に登録数も増加し、「地域に求められる資源として」お役に立てる機会を多くいただいている。北広島市の高齢化率や要介護認定者数は年々増加し、またリハビリニーズも年々高まっている状況にあり、今年度より新規事業としてリハビリ特化型の地域密着型通所介護を開設する。法人理念・信条を実践する為、専門性ある良質な高齢者リハビリテーションの提供と個人の活動と生活機能の向上及び健康増進の支援を行い、可能な限り居宅生活が継続できるよう、市や高齢者支援センター、居宅介護支援相談事業などと共に連携を図り、地域に根ざしたサービスの提供していく。また、個々の運動管理能力と自立支援を促し、要支援・要介護度の改善が図れるよう努めていく。

<重点事項>

1. 総合事業 通所型サービスA：いきいきライフ

介護予防ならびに健康増進の促進を目指し、運動の自己管理能力や自立支援を促す。そのツールとして、最新機種であるデジタルミラー等を活用し、個人の身体機能評価や姿勢評価を可視化し、動機付け、エビデンスに基づいた包括的高齢者運動プログラムを実践する事で運動効果を最大限に引き出すよう努める。

2. 総合事業 通所型サービスC：わくわくフィット

最長6ヶ月間の期間内において、お客様のニーズである生活環境を含めた生活機能の向上を目指し、自立した地域生活を送る事ができるよう支援する。また卒業後は運動の自己管理やインフォーマルサポート等を活用しながら、その生活機能が維持できるよう支援する。

3. 地域密着型通所介護：のびのびファイブ

お客様が可能な限り居宅において、自分らしく生活を送る事が出来るよう、ケアプランや基本理念に基づいたリハビリテーションを提供いたします。ツールとして、通所型サービスA同様にデジタルミラーを活用し、評価を可視化し、お客様・ご家族様、担当ケアマネージャーと情報共有出来るよう、定期的に評価し、説明と同意を図る。また付加価値として、STによる口腔内環境や嚥下・言語機能の評価し、セルフトレーニング等の指導も実施する。

4. 感染症への対応

感染症対策に対する知識を高め、感染拡大防止ガイドラインに基づきお客様並びに職員の感染予防を徹底し安心して利用して頂ける環境に努める。お客様の体調確認、訓練機器・車両等の使用前使用後の消毒、情報管理の徹底を図ります。

障がい福祉サービス事業所みなみ

基本理念に基づき地域で暮らすどのような障がいの方にも、その人らしく生き生きとした生活を送って頂けるよう個々の障がい特性に配慮した個別支援計画書の作成を基に、みなみで過ごす時間を利用者様に喜んで頂き、毎日でも行きたいと思ってもらえる環境を作り、多様な日中活動を提供する。

日頃からの情報共有とチームワークを大切にし、チーム力を高め、質の高いケアの提供、各職種の専門性を生かし、一体的な支援を行う。

地域住民にみなみを利用して頂く機会(行事等)や場を作り、地域資源の一つとしての存在を確立する。

<重点事項>

1. 利用者個々の状況に合った、日中活動の充実

2. 支援力の向上、チームで一体感を持った支援体制作り

3. 地域や周囲の社会資源との協調関係作り
4. 共生型通所介護による一体的なサービス提供
5. 感染症対策に対する知識を高め、感染予防を徹底し安心して利用して頂ける体制作り

障がい児通所支援事業みなみ

法人の基本理念に基づき、利用児童・ご家族の生活に寄り添い、信頼関係を構築しながら、安心して利用して頂く事の出来るサービス提供に努める。

それぞれの障がい状態に応じたリハビリの提供による身体機能の維持や日中活動の充実を図り、他者との活動の楽しさ、体験を通して、成長の促しを目指す。

医療的ケアを必要とする児童が多い事から、日頃からご家族との密な連絡を取り合う中で安全なケアを提供し、体調変化への気づきや希望に応じたきめ細やかな対応を行っていく。

また、日頃から関係機関（医療、学校等）との連携や情報交換を行い、職員間での情報共有を図りながら緊急時（重篤な発作等）等、いざという時に迅速な対応を行える様にしていく。

体調不良、入院等による急な利用キャンセルが予測される中、少人数単位で有るゆえの利用実績への影響は大きく、迅速に待機児童への利用調整を行いつつ、安定した運営を図って行きたい。また、感染症に関する正しい知識を付け、防止対策を徹底しながらご家庭とも連携し、利用児童の感染リスクを低減していく。

<重点事項>

1. 利用児童、ご家族との信頼関係の再構築

昨年末の一時休止により利用児童、ご家族に不安やご迷惑を与える結果となった事を踏まえ、新たなスタッフとの信頼関係づくりを第一にして行く。

2. 専門職による質の高いリハビリや療育、日中活動の提供
3. きめ細かい医療的ケアの実施
4. 家族に対する支援
5. 感染症対策の徹底とご家族と協力した感染リスクの低減

障がい者生活支援センターみらい

昨年度から、計画相談・児童支援中心の A チームと成人・一般相談中心の B チームに担当分けして取り組むことで行事や会議等の分担が明確になり円滑な業務遂行ができてきた。B チームを中心にイージーアクセス事業（時代のニーズに合った情報の受発信やコミュニケーションツール等テクノロジーの活用）やコミュニティアクト事業（社会的孤立感の緩和のための交流事業の展開）に積極的に取り組み、一定の効果が得られた。今年度も引き続き重点項目として掲げ、法人理念に沿ってさらなる効果を得られるよう以下のとおり取り組んでいく。

相談の対象は幅が広いので、制度や社会資源に関する知識と共に、思いを聴きとる力（信頼は接し方から）を意識して業務に取り組み、必要なタイミング・量で提供する（お客様の役に立てるように）。

個々の負担感を軽減するために、他の相談員と連携する力（力の出るほうれんそう）が欠かせない。より良い実践を行うため、連携を意識して、相談支援・業務遂行の向上を図っていく。

地域社会との関わりが少ない方などに対して、ホームページ・インスタグラム等を用い、みらいを知ってもらい相談につながる事を目指す（地域に求められる資源として）。

感染症への対応をしつつ、居心地の良い場所や、やりたいことを見つける事が出来る、自然な形で他者と繋がる事が出来る新たなコミュニティの形を当事者と伴に創る（お客様に喜んでもらえるように）。

また市の自立支援協議会と連動した社会資源の連携強化を目指す（地域の資源の活用とつながり）。

<重点事項>

1. 相談支援力の向上

- ・連携する力の向上
- ・質の高い「サービス等利用計画」の作成・維持

2. イージーアクセス事業

- ・時代のニーズに合った情報の受発信や相談支援のかたちをつくっていく

3. コミュニティクリエイト事業

- ・社会的孤立感緩和のための交流事業の展開
- ・安心して当事者が社会と繋がることのできる場との連携と提供

4. 各事業については状況を見定めながら感染症対策を講じる（具体的な取り組みに盛り込む）

北広島リハビリセンター特養部四恩園（高齢者施設全体）基本方針

<事業方針>

VUCA の時代と言われる。Volatility（変動制、不安定さ）Uncertainty（不確実性、不確定さ）Complexity（複雑性）Ambiguity（不明確さ）の頭文字をとったものであり「予測不可能な状態」を意味する。

近年、全国各地で起こる甚大な自然災害、年が明け、世界中に猛威を振るい収束が見えない新型コロナウイルス等いつ、どこで、何が起こるかわからない中、緊張、不安を感じつつ、今日までの「平凡で」「あたりまえの」「普通」の暮らしが一瞬にして「特別な暮らし」へ変貌させる。「なぜ私たちが・・・」「何故、この町が・・・」という怒り、悲しみ、くやしきという感情の矛先をどこにも向けられない空虚感はやがて明日への希望、夢を奪い心身を疲弊させ、生きる意欲までも喪失させる。しかし、そんな状況下でも人々は励まし合い、支え合いながら一歩ずつ前へ進もうとする逞しさを見せる。その根源は「だれかのために」という利他的な思いなのだろうと人々の行動は感じさせてくれる。

自分たちの「平凡で」「あたりまえの」「普通」の暮らしは社会の中にある様々な社会資源、制度との良好な相互関係がある時に「幸福」という形で実感できる。

我々の仕事が「福祉」ではなく『「社会」「福祉」』であるという事は、人々が社会の中でどのような関係の中に置かれて、その中でどんな生きにくさや生活のしづらさを感じているかを対話を通して明らかにしながら軽減していくことであり、それが「普通の暮らし」という幸福実現への実践となりえるものである。目に見える実践で目に見えないひとり一人の価値を援助関係と人としての関係を通じて支える仕事であることを理解していなければならない。

近代社会の発展は人々の生活を便利にしながら反面これまで体験したことがない困難を生み出していく。既存の法律や制度の枠組みだけでは解決が出来ない課題に対して「解決策を創る」という営みが社会福祉実践に求められる。ケアがなければ生活できない、生きていけない人々が存在する現実に対し社会福祉という仕事を通して社会の在り方を問い続け、地域のニーズを掘り起こし住民一人一人の幸福実現に貢献するかかりつけ施設としての四恩園（高齢者施設全体）の役割を考えていく 1 年としたい。このことは、社会福祉法人、社会福祉事業の在り方にも通じるものだと思う。

<重点項目>

1. 人材確保、定着のための誇りある仕事としてのケアの「見せる化」

日々のケア実践で得られる多くの感動、喜びを職員間で共有し、さらには地域へ発信することで四恩園のケアが他の事業所のケアと異なる魅力あるケア、力のあるケアでありことを「見せる化」する。

四恩園でケアをする自分に誇りを持つことが職場への定着を安定させ新たな人材確保へとつながるものである。

各事業が相互作用しあい相乗効果を生んだケアがお客様の生活の安定を生み出していることを自覚し、職員にとっても魅力ある職場となっていることを強調できるようにする。

2. 働きやすさ、暮らしやすさのための大規模改修工事

四恩園は開設後 24 年が経過。24 時間 365 日の活動によるハード、ソフトも老朽化が目立つようになってきた。時間の経過と共に社会情勢、利用者ニーズ、職員ニーズも機器の進歩も変化してきており、職員が働きやすい、利用者の暮らしやすい環境整備が不可欠である。

職員満足が利用者満足を生み、利用者満足が職員の働く意欲を向上させる相乗効果を生む

ものである。体制の変更も視野に入れながら次年度の大規模改修工事へ向けたハード、ソフトの検討を行う。

3. 外国人介護職の受け入れ

国難ともいえる介護人材不足において人材確保、定着は労働集約型サービスであるケアにおいては生命線である。そのためミャンマーからの2名の外国人介護福祉士養成施設入学支援、2年後の採用に向けて動き出したところである。チームの一員として働いてもらうためには我々自身もその国の文化、慣習を学ぶことが必須である。

地域共生社会の実現が叫ばれる中で障がい、高齢、子ども、外国人といった括りではなく「ひとりの人間としての関わり」の視点が重要であり、外国人介護職の受け入れは「誰もが安心して働ける職場」環境の基盤となるところである。

4. 求められる職員像と研修体制の再検討

昨年度より、各委員会を法人の下部組織であることを明確にして活動をしてきた。各委員会の創意工夫、試行錯誤を繰り返した課題解決のプロセスは、新たな課題発見の機会ともなり法人全体の運営に大きな影響を与えた。各委員も経営への参画意識を高めることができた。

今年度も各職員一人一人がそれぞれの立場でリーダーシップとフォロワーシップを発揮し合いながらチームケアを担うことのできる法人組織、職員育成の機会としても活用していく。また、法人が求める職員像を明確にし職員全員がサービス利用者、地域住民に求められる職員になれるよう研修等の体制を法人研修委員会、施設内研修委員会等と協働で構築していく。

5. 地域住民の主体的活動への支援

地域交流拠点が出来、ふれては11年目、ともには7年目を迎える。ふれては年間1万人、ともには3万人の地域住民の利用があり、団地地区内ではその存在も広く知られるようになった。それぞれの拠点での活動は市民スタッフ同士、そこを訪れる地域住民、職員との双方向のコミュニケーションにより主体的活動が行われている。

その中で市民スタッフの高齢化という課題がある。継続したスタッフの確保、定着が不可欠である。職員はあくまでもスタッフの側面的援助を担うものであり、市民スタッフのスピードに合わせながら、住民同士がつながりを持ち、助けられるように継続的な支援を行う。

6. 新たな働き方、サービス提供の模索

新型コロナウイルスの発生拡大は、人々の生活をあっという間に変化させた。人とのつながりで成り立つ生活を「つながりを絶つ」「距離を置く」ことで命を守る新しい生活様式が求められる。仕事においてもこれまでの仕事の仕方、会議、研修の開催方法について再検討が求められる。ICT等の活用等非接触、非集団化を考慮することが求められる。さらに地域交流スペースの利用方法も検討が求められる。同時に新たな感染症や自然災害を想定したリスク管理に取り組んでいく。

特別養護老人ホーム（定員 50 名）、短期入所者生活介護（定員 10 名）

<事業方針>

四恩園施設サービス機能を地域の拠点と位置付け、在宅生活の延長としてお客様をお迎えできるように生活の継続において四恩園に関わる全ての「人」の満足を高められるようにしていく。またこれから出会う全ての「人」の幸福を願い、我々施設サービス課は基本理念を念頭に 2020 年度「SHIONケア」をスローガンに掲げお客様に四恩園に巡り合えて幸福を感じて頂ける生活ケア提供を目指します。

「SHIONケア」S=Satisfied 満足、H=Happiness 幸福、I=Idia 想像、O=Originality 独自性、N=N o. 1 ブランドの 5 項目をお客様支援に位置づけ施設サービス課は取り組みます。

<重点項目>

1. 施設サービス機能の要望に応えるべく多職種連携、調整を図ります。

施設サービス課の入所機能（施設入所、短期入所）の利用希望、要望を施設サービス課長以下各チーフによる積極的支援を展開し四恩園施設ベッドを提供していきます。利用に際しお客様ならびにご家族様の身体状況を確認の後、医務課、栄養課、担当ケアマネ等多職種連携に努めご利用ニーズに応えます。

2. 施設サービス機能を存分に発揮すべく人財確保を実現します。

昨年度に引き続き、業務の内容・時間など働き方を見直し、働きやすく働き甲斐のある職場作りに取り掛かります。またここが私たちの願うお客様の幸せが実現できる場所となるよう感染症対策を徹底し安全面を確保しつつ、ハード面の改修準備を進めていきます。ハード面の魅力アップだけではなく、私たちが積極的に地域に出向きケアの魅力を伝え共に夢を目指す仲間を増やします。

3. 多様なニーズに応えるべくサービスの質向上を実現します。

研修方法を一新し、職員の学びがケア実践に反映される仕組みを作ります。外部機関との連携も強化し感染症認定看護師による感染症対策研修、提携歯科医院による口腔ケア管理指導やオムツアドバイザーによる排泄ケア研修を定期開催し、ケアの質向上に努めます。また最新福祉機器の導入と活用を進め、お客様・職員双方にとって安全・安心のケアを実現しつつ多様なニーズにも応えます。

北広島デイサービスセンター四恩園（定員 50 名）

<事業方針>

北広島デイサービスセンター四恩園は、お客様お一人お一人が“自然に心と身体が動く”ケアを提供することで心身機能の安定と笑顔を引き出し、お客様はもちろん、介護するご家族や地域をも元気にできる事業所になることを目指しています。

今年度は、食事(水分)・排泄・入浴の三大ケアに起居移動を加えたケアについて、お客様が“自然にかつ最大限に自身の力を発揮し続けることができる”ことがお客様の“あたりまえの生活”の継続につながるという基本に立ち返り、ケアの質の担保と向上に取り組むとともに、“自然にかつ最大限に自身の力を発揮し続けることができる”生活がリハビリテーションそのものであり、心身機能の維持安定につながっているということの啓蒙にも取り組みます。

介護保険制度が改正になる度に通所系事業所に变化を求められているという状況を

鑑み、来年度に迫る制度改正と第8期介護保険事業計画についても情報収集を続け、対応の検討と準備を行います。

<重点項目>

1. お客様お一人お一人が”自然に心と身体が動く”プログラムの再検討

心身機能が軽度・重度に関わらず様々なお客様と一緒に楽しむことができるプログラムを検討します。

2. お客様が安心して利用できるための環境作り

体調変化を早期に発見・対応すること、感染症対策を徹底することで、お客様が安心して利用できる環境を作ります。

3. 評価と成果の見える化とケアの統一化に向けた取り組み

既存の書類、数値やグラフ、写真や動画の活用で評価と成果の見える化とケアの統一化を図ります。

3. 職員の知識と技術の向上

三大ケアと起居移動のケアについてお客様が“自然にかつ最大限の力を発揮することができる”ことが基本であることを再理解するための取り組みを行います。

デイホームさとみ (定員 10名)

<事業方針>

基本理念を基に思いやりの通じ合う、身近な存在として、安心してすごしてもらい事業内容もこれまでの生活で担ってきた家事全般を中心にできることに自信をもって参加していただく。魅力のある事業内容で登録者 15 名を目標にする。

地域資源の活用をしながら自分たちの住んでいる北広島の再発見のできる取り組みを考える。お茶の間を通じてさとみ 5/6 丁目に住む一人暮らしの方、世話人と介護事業所、市役所、みなみ高齢者支援センターとの結びつきも増えている。これらのつながりから介護予防のお手伝いの役割を担う。

<重点項目>

1. 身近な存在で安心して過ごしてもらう。

○安心安全なケア ➡ 適切な身体介護、基本ケア

➡ 尊厳を大事にする言葉

➡ 感染症の予防と注意

○役割を担う

➡ 昼食準備、洗濯、掃除

2. 魅力のある事業 目標 登録者 15 名

○おもしろい、好きなこと ➡ 脳トレ、手芸、おやつ

〃 ➡ 合唱交流 (グランパ) マージャン

○季節の事業 ➡ 誕生会、節句、BBQ、流しそうめん、敬老、もちつき、

Xmas

○身体にいいこと、誤嚥予防 ➡ 百歳体操、かみかみ体操、音楽体操

○外出を増やす ➡ 歩く機会、北広島を知る 外気浴をする。

屋外 ➡ サンパーク、ふれあい公園、島松駅通

室内 ➡ イシヤカフェ、生協エルフィン、イオン西岡

○日帰り行事を増やす ➡ 温泉、レストラン外食、千歳サーモンパー

3. 全職員が役割をもって事業に取り組む

- 質の向上を目指し、研修、公開講座に参加して現場にフィードバックする
経験の多い職員が状況でサポート役、アドバイスをを行い介護のスキルを身に着けて適切な介護につながる。 ➡ 通年

デイホームかたる（定員 33 名）

＜事業方針＞

デイホームかたるは、介護保険の入り口的な役割を担い、軽度のお客様を中心とし「お客様お一人お一人の“やりたいこと”が“できる”ために」という視点で生活力が維持・向上するサービスを目指します。地域の社会資源を活用し、地域交流ホームふれてやボランティア、各相談機関と連携をとりながら地域に根差したサービスを目指します。

また、安定した事業が展開できるように、業務の効率化、職員の資質向上、次世代を担う職員の発掘、育成、地域のマンパワーの活用にも積極的に力をいれていきます。そして、介護保険法の改正と第8期介護保険事業計画については、引き続き、情報収集と対応すべく準備を進める年度としたい。

＜重点項目＞

1. アセスメントを徹底し、お客様個々の生活力を維持・向上すべく「楽しい」を基本としたプログラムを検討、実施します。
2. 日常の感染予防対策を徹底し、お客様や職員の健康管理に努めます。
3. お客様と地域、事業所と地域がつながり、支え合える関係を構築します。
4. 業務内容の整理と改善、職員のスキルアップを進め、安心・安定した事業の運営を目指します。

みなみ高齢者支援センター（地域包括支援センター）

＜事業方針＞

2020年度は、北広島団地地区を担当圏域とする地域包括支援センターとして、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けることのできる地域包括ケアシステム構築を目指し、「個を地域で支える援助」と「個を支える地域を作る援助」を両輪で実践します。近年は我が事・丸ごと地域共生社会実現本部の設置などから、支え手や受け手という考え方の撤廃・年齢による縦割りの区切りの撤廃などが浸透しつつあり、高齢者の活躍が今後ますます期待されることです。自助・互助・共助・公助で言う「自助」「互助」機能を強化できるようコーディネート機能を発揮する他、地域住民・自治会・行政・病院・大学・社会福祉協議会・民生委員や地区福祉委員・民間企業など関係機関とのネットワーク連携を構築し、住みよいまちづくりを目指します。

近年は自然災害や新型コロナウイルスなど疫病の流行等、予め予期できないような現象が続いています。広域的に生活へ影響を及ぼす災害等が発生した際も、情報収集・過去の教訓等を生かし、臨機応変に対応することで、たくましく支え合える地域づくりを目指します。

＜重点項目＞

1. 地域包括支援センターが実践している各事業の円滑な実施と他機関・他職種連携（総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的継続的ケアマネジメント事業、介護予防マネジ

メント事業、家族支援事業など)

2. 北広島団地地区の地域課題解決に向けて、生活支援コーディネーター及び第2層協議体活動を通じた自助・互助機能の強化
3. 新型コロナウイルスの流行に伴い、地域でどのようなことが実際に起こっているのか情報収集と今後に生かすことのできる情報分析の実施

北広島団地地域交流ホームふれて

<事業方針>

「人と人のつながり（ふれて かたる）から生きることの喜びを知ろう！！」

人が生きることの究極の目的は、一人ひとりの人格が尊重され尊厳が保持されることでもあります。ふれては、子供・高齢者・障がい児者など、地域住民一人ひとりがつながることによって、お互いを尊重し尊厳をもって安心して生活のできる豊かな地域社会となるようその実現を目指します。

<重点項目>

1. 共生の理念のもと、地域の方が数多く集い、積極的に交流できる場にします。
2020年度目標：毎月の来場者数平均800人を継続します。
2. ふれて市民スタッフを増やし組織化します。
2020年度目標：市民スタッフ数を70人にします。
3. 地域住民・社会資源・関係機関と連携し、地域力を高め、地域を考える場にします。
2020年度目標：認知症の方やその家族の方も安心してくつろげる場所を提供します。
4. 情報の発信と相談対応により、不安を解決できる場にします。
5. 北広島団地地区の資源・象徴として、建物管理や環境整備を行います。
6. 新型コロナウイルスの流行に伴い、来場者へ感染拡大防止のケアを行います。

北広島団地地域サポートセンターともに

<事業方針>

～ 更なるつながりを求めて ～

地域の財産、地域にとってのシンボルであった緑陽小学校は、「地域サポートセンターともに」として生まれ変わって6年、人と人の“つながり”と“絆”を大切にする空間として現在でも子供たちや地域の人々にとって、そしてここを利用するお客様と私たち職員にとっても掛け替えのない場所となっている。毎年沢山の地域の人々が交流するこの場所でお客様は住まい、通い、私たち法人は7つの事業を運営している。

しかし、北広島団地（さんぼ街）の高齢化率は46.3%（2019.11.30）と上昇を続けており、未だつながりの希薄化による生きづらさを感じている人は少なくない。特に障がい児・者や一人暮らしの要介護高齢者や認知症高齢者に顕著にあらわれ、老々介護、認々介護、孤独死や認知症の人の行方不明など、人口減少と相まって地域課題へと更なる広がりを見せている。

引き続き私たちは地域サポートセンターともにを拠点として、保健・医療・福祉サービスで生きづらさを感じている人の権利を擁護し喜んでいただけるサービス提供に努め、社会福祉法人の独自性、公益性、非営利性などを発揮する。そして制度に基づくサービスに限らず地域への生活課題にも地域の人々・行政とともに三位一体で積極的に取り組んでいく。

私たちは更なる人と人のつながりから生きることの喜びを創造し笑顔があふれる支え合いのまち（共生社会）をつくるための挑戦を続けていかなければならない。

地域に求められる 100 年続く地域の拠点を目指して。

<重点項目>

北広島市において、平成22年3月につくられた北広島団地活性化計画の基本方針に3つの理念がある。一つは「北広島団地に住み続けられること」、二つ目は「将来、住民となる次世代のこと」、三つ目は「北広島団地の魅力アップ」。私たちはこれらの理念のもと、地域サポートセンターとものが持つ特性を有効に活用し、下記に示す20項目の取り組みを実践する。

1. 北広島団地に住み続けられること

- 1) 交流の場の創造
- 2) 地域交流スペースに喫茶やキッズコーナー、宿泊機能を
- 3) イベントの開催
- 4) 地域の介護予防とスポーツの推進
- 5) 星槎道都大学との連携
- 6) 住民ボランティア組織化とコーディネート
- 7) 喫茶コーナーの運営
- 8) 地域食堂の運営
- 9) 地域ミーティングで地域の活性化を
- 10) ミニ講座・ミニ講演の開催
- 11) 高齢者・障がい児者の介護相談と生活支援
- 12) 認知症の人の支援
- 13) 災害時要援護者の支援
- 14) 福祉と医療の連携

2. 将来、住民となる次世代のこと

- 15) 高齢者向け住宅の確保
- 16) 子育て環境の充実

3. 北広島団地（さんぽ街）の魅力アップ

- 17) まちの人材（人財）を活かし地域の魅力アップ
- 18) 宿泊施設の活用
- 19) 地域活動への協力と参加
- 20) 情報の収集と発信

4. 感染予防と対策

北広島居宅介護支援事業所四恩園

<事業方針>

近年、北広島団地においても「8050問題」「親亡き後問題」「ダブルケア」「高齢者の運転」などの課題が顕在化している。いずれも10年前には地域のニーズとして取り上げられることがなかった新しい課題である。「地域包括ケア」が提唱され十数年が経ち、「地域包括ケア」が支えるべきニーズが変容しつつあると言える。介護支援専門員の個々の関りから地域のニーズを改めて理解し、ニーズを支える地域像を考えたい。

介護支援専門員は、介護保険サービスの利用という切り口から、それらの課題を抱えた人や家族を支える立ち位置に身を置いている。今まで以上に、介護保険サービス利用の支援に収束せず、その家族固有のシステムや生き方、背景を理解するための関わり方について研鑽を積み重ねなければならない。また、こうした課題は容易に解決することが困難であり、関わる介護支援専門員もストレスに耐えながら実践を重ねることとなる。事業所内のスーパービジョンや関係機関との連携においてストレスに耐えながら実践する体制をとっていく。

地域で暮らす高齢者の多様な生き方や違いを認め合い、様々な課題を抱えつつ生活している人々を寛容に受け止めることのできる「共生社会」を目指し、独居や高齢世帯であっても「私を分かってくれる人がいる」と感じる「つながり」を形成し「人間としての尊厳」が保たれ「幸せ」な生活を実現するための支援を実践していきたい。

<重点項目>

1. お客様を地域で支えるケアマネジメントの実践
2. 安定経営と業務改善の取り組み
3. 地域の基盤づくり
4. 地域を支えるソーシャルワーカー育成

北広島グループホーム四恩園（定員 18 名）

<事業方針>

グループホームでの生活は、馴染みの関係性の継続として捉え、認知症になっても安心した環境の中でお客様それぞれの人生を最期まで全うできるよう支援していく。専門性を発揮し多方面からアプローチできるよう知識、技術を深めるとともに、ケアの質向上に努め、その人らしさを追求し続ける事で細やかな支援を継続していく。また、感染対策予防に努め、研修の実施やマニュアルを通して職員の意識を高める。

働きやすい環境づくりに努めることでサービスの安定を図り、チームとしての力をつけて認知症ケアに取り組んでいきたい。また、稼働率100%を目標とし理念をもとに日々の関わりの中で積み上げていきたい。

地域とのつながりが日常の生活の中で継続していけるよう、運営推進会議、ボランティア、市民スタッフ、家族の集いのみなさまとの関係性を継続し、イベント活動等にも取り組んでいく。

<重点項目>

1. 多面的な視点でその人を捉えケアの質の向上を図る。
 - 1) 職員が担当しているお客様の個人史を踏まえ、アセスメントの視点を広げ想像力を深める。
 - 2) 個別シートを活用しグループワークを通して実践力を得る。

3) 事例を通し職員全体で要因分析の視点やコミュニケーション力の向上を図る。

2. 人材育成とチーム力の向上

- 1) 業務の見直し（日勤業務内容を中心にムリ、ムダ、ムラの排除）。
- 2) 資格取得にむけて目標を持つことで知識をつけて取り組める力を得る。
- 3) 職員の心得など（チェックシート）を活用し、客観的な視点で自己を振り返る。

よう取り組む。

- 4) 職員個々の役割を發揮し、職員同士が相互に関わり合いチーム力を深めていく。

3. 地域とのつながりを大切にお客様が生きる喜びを感じて頂けるよう努める。

- 1) 運営推進会議、ボランティア、市民スタッフ、家族の集いのみなさまと一緒に日々の馴染みの関係性を継続しイベント活動にも取り組んでいく。
- 2) お客様が今まで大切にしてきたものを継続できるようさまざまな交流を活用し、生活に楽しみを感じて頂ける様取り組む。

4. 感染対策について、基本的知識、手順等の確認実施

北広島複合型サービス四恩園（登録 25 名）

<事業方針>

1. 「住み慣れたこのまちで暮らし続けたい」そうしたお客様やご家族の思いを支え、その人らしい「生き方」「暮らし方」の実現していくため、地域に開かれた家庭的な事業所を目指します。生活の主人公はお客様です。「～したいの実現」「持っている力の活用」「生活の継続性」を大切に、なじみの介護・看護職員が「通い」「泊り」「訪問」「訪問看護」のサービス提供し 24 時間・365 日、切れ目のない支援をおこないます。
2. 介護と医療の連携のもと地域で暮らし続ける事ができるよう、認知症の方や医療ニーズのある方の在宅生活継続を支援します。訪問診療医療機関との連携により、看取りの希望にも対応していきます。

<重点項目>

1. お客様本位の自立支援介護、個別性の高いサービス提供に努めます。

- 1) 個々のお客様の生活の意向を踏まえ、その人固有の価値観に基づいた生活を継続できるよう、なじみの関係を活かした個別的な自立支援介護に努め生活リハビリ・看護サービスを提供します。
- 2) お客様・ご家族の意向を確認し、いつでもつながる安心を提供するため、随時の相談援助や介護相談、臨機応変なサービス提供体制を維持し他機関とも連携していきます。

2. お客様のより良い生活、健康管理のため、主治医やかかりつけ薬局、サ高住しおん、グループホーム四恩園、訪問リハビリ、レンタル事業所との連携を強化します。（看取り対応も含む）

- 1) 主治医との連携を取るため、看護サービスの提供、訪問診療の立ち合いや受診同行、主治医とのメール等の情報共有により、お客様が適切な医療サービスが利用できるよう支援します。
- 2) ご本人がより安全に自分の能力を活かして生活できるよう、訪問リハビリや居宅療養管理、福祉用具等活用します。

- 3) 日常の感染予防対策を徹底し、お客様や職員の健康管理に努めます。
3. サービスの質の向上を図り安定した事業運営に努めます。
 - 1) 研修やストレスマネジメントにより、職員の技術や知識、倫理の向上をはかります。
 - 2) リスクマネジメント（シートの活用、車両管理、コンプライアンス）に努めます。
4. 地域との繋がり、法人としての地域貢献に努めます。

運営推進会議、ボランティアや市民スタッフ、家族との繋がりを活用し、多様な交流と地域行事や外出機会を作っていきます。地域の一員として楽しみある生活を送れるよう支援していきます。

北広島訪問看護ステーション四恩園

<事業方針>

今後の社会情勢を踏まえ、在宅生活を送る療養が必要な方々やそのご家族が、住み慣れた地域でできるだけ長くその方らしい生活が送れるように、医療・福祉・保健の連携・ネットワークを構築する一助となるよう関わる。また、予防的な視点を持ち、医療面のみならず総合的な知識や技術を習得できるように各々が努力し、ステーション自体の質向上を図る。

訪問看護が療養生活を支える上で重要な役割を果たすこと、最期の過ごし方や看取り等についてより多くの住民や医療・福祉従事者に知ってもらうための啓発活動を実施し、地域とのつながりを深める。地域包括ケアの担い手としての役割を認識し、次世代の育成も視野に活動を展開する。

市内訪問看護ステーション間の連携を強め、市民が受けられる在宅医療のケアの質向上を図る。

感染予防対策を徹底し、安心して訪問看護を利用いただけるようにする。

<重点項目>

1. アセスメント力を高め個別性を尊重した看護計画作成と看護実践を行う。目的を持った研修を実施し、当ステーションの質向上を目指す。
2. お客様の療養生活における目標設定をサポートし社会活動・社会参加を積極的に支援する。モニタリングを実施し、お客様やご家族の意向をサービスに反映させる。
3. 地域包括ケアシステムの担い手としての役割を認識し、医療従事者・介護事業者・地域住民への啓発活動を実施、訪問看護の普及への地域活動を実践。
4. 市内訪問看護ステーション間の情報交換と連携を図る。
5. グループホーム入居者（しおん・ヤマブキ）の健康管理や看取り支援の充実を図る。
6. 次世代育成への取り組みを実施し、事業継続への担保を図る。
7. 日頃の感染予防対策を万全にし、利用者とそのご家族、スタッフ自身の健康管理に努める。

北広島ホームヘルプサービスステーション四恩園

<事業方針>

お客様一人ひとりの「その人らしい生き方」を継続するために、その方の持てる力を見つけ、生活の中でサポートできる介護を、基本理念に基づき実践します。訪問サービスを安心して受けていただけるように感染予防策を徹底します。従来の訪問介護とは別な形で生活を支える定期巡回随時対応型訪問介護看護を地域や連携多職種の方に知っていただけるように情報を発信していきます。ホームヘルパーの魅力を伝え、新人ヘルパーの獲得と育成を行い、訪問件数の増加に努めます。

<重点項目>

1. 「その人らしい生活とはなにか」をチームで統一したケアで実践する。
2. 訪問時の感染対策が各自きちんとできる。
3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の実践と地域へ周知する。
4. ヘルパーの質の向上に努める。
5. 業務の効率化をはかる。
6. 人材確保に努める。(在籍ヘルパー離職防止と新人ヘルパー確保)

サービス付き高齢者向け住宅しおん(31室)

<事業方針>

基本理念に基づき、お客様一人ひとりの思いに寄り添った対応を心がけ、状況の変化にも迅速に行動し、お客様やご家族に安心・安全に暮らしていただきます。また、しおんでいつまでも自立した生活が継続できるよう、健康寿命を延ばす工夫を行います。

お客様が長い間築き上げた人間関係や地域との繋がりを大切にしつつ、入居者同士の新たな交流、そしてともにへ関わる地域の人々や職員との新しいコミュニティを築き、楽しく、充実した日々を過ごしていただきます。

サービス付き高齢者向け住宅しおんは、お客様が自分らしい生き方で、楽しく幸せな終の棲家になることを目指します。

<重点項目>

1. 感染予防を徹底し日々の暮らしの中で、安心・安全を実感できる住宅にします。
2. 人とのつながりの中から、楽しみや幸せを共感できる拠点にします。
3. 自立支援を促し、健康寿命を延ばします。
4. 快適な住環境を目指して、建物管理や環境整備を行います。
5. 職員の質の向上を図ります。